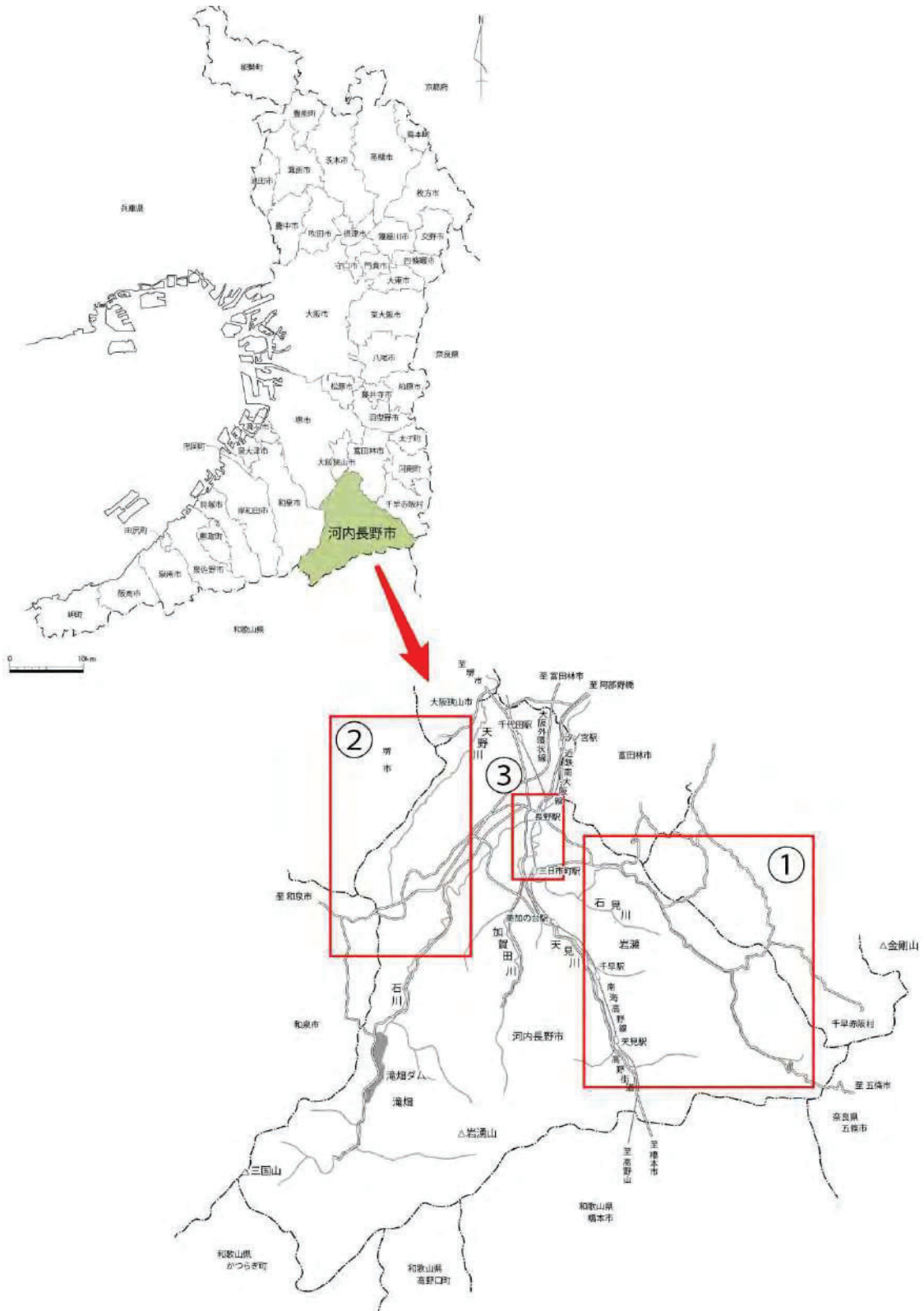


① 申請者	河内長野市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	ちゅうせいにであえるまち～せんねんにわたりまもられてきたちゅうせいぶんかいさんのほうこ		
中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>河内長野市は京と高野山を結ぶ街道の中間地に位置し、檜尾山観心寺、天野山金剛寺の2大寺院が隆盛したまちである。街道沿いの白壁の塀、銀色に輝く瓦葺きの屋根、朱・緑・黄色などの鮮やかな柱、優雅で美しいその建物の中は凜とした静けさに包まれ、金色に光り輝く仏像が安置されている。</p> <p>この2大寺院の隆盛により市域では多くの社殿、お堂や仏像が造られ、また交通の要衝となったことから山城も築かれた。ここは、悠久の時を超えて千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫であり、訪れる人がまちじゅうで中世を体感できるまちである。</p>			

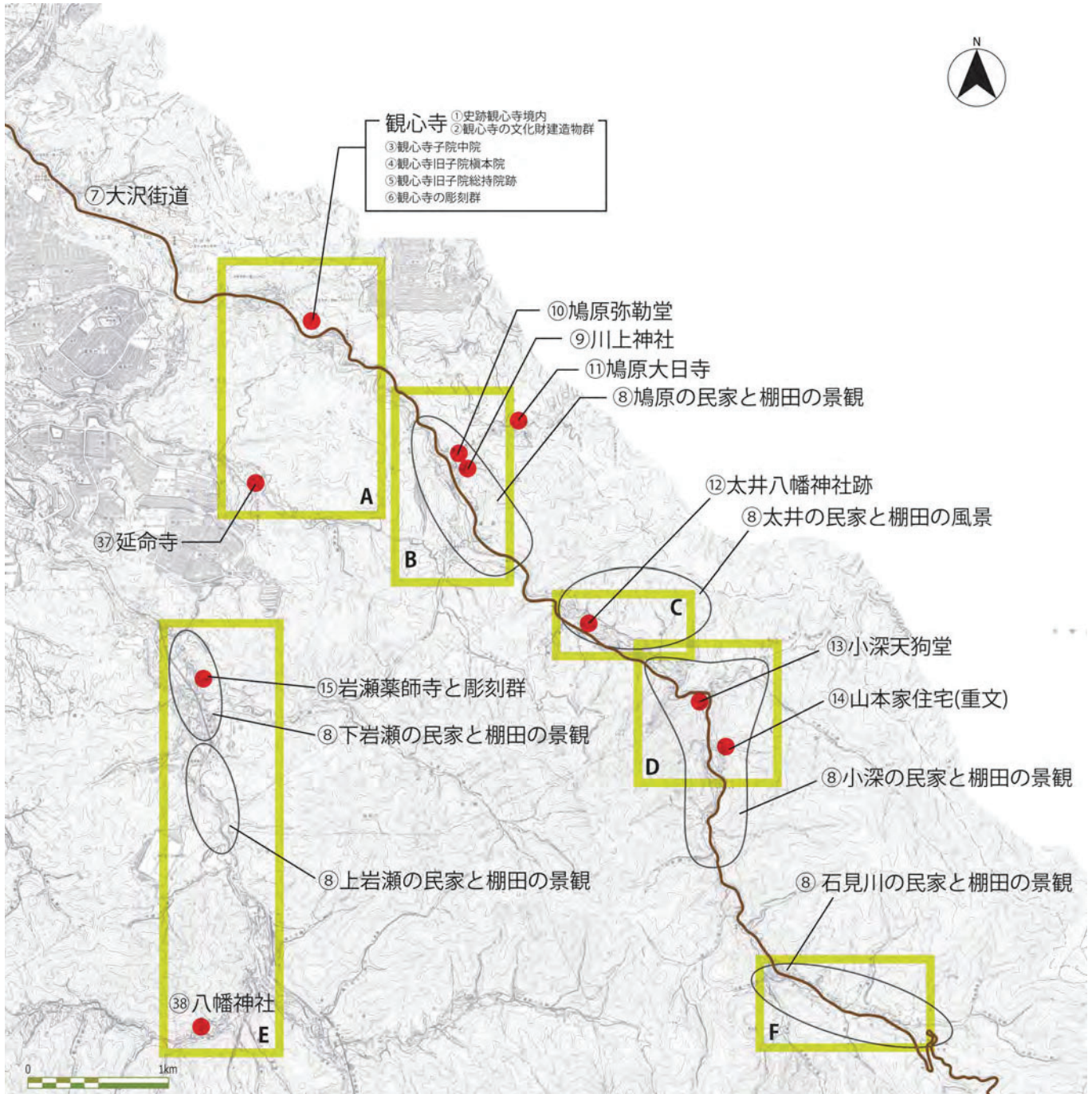
※昨年度申請実績

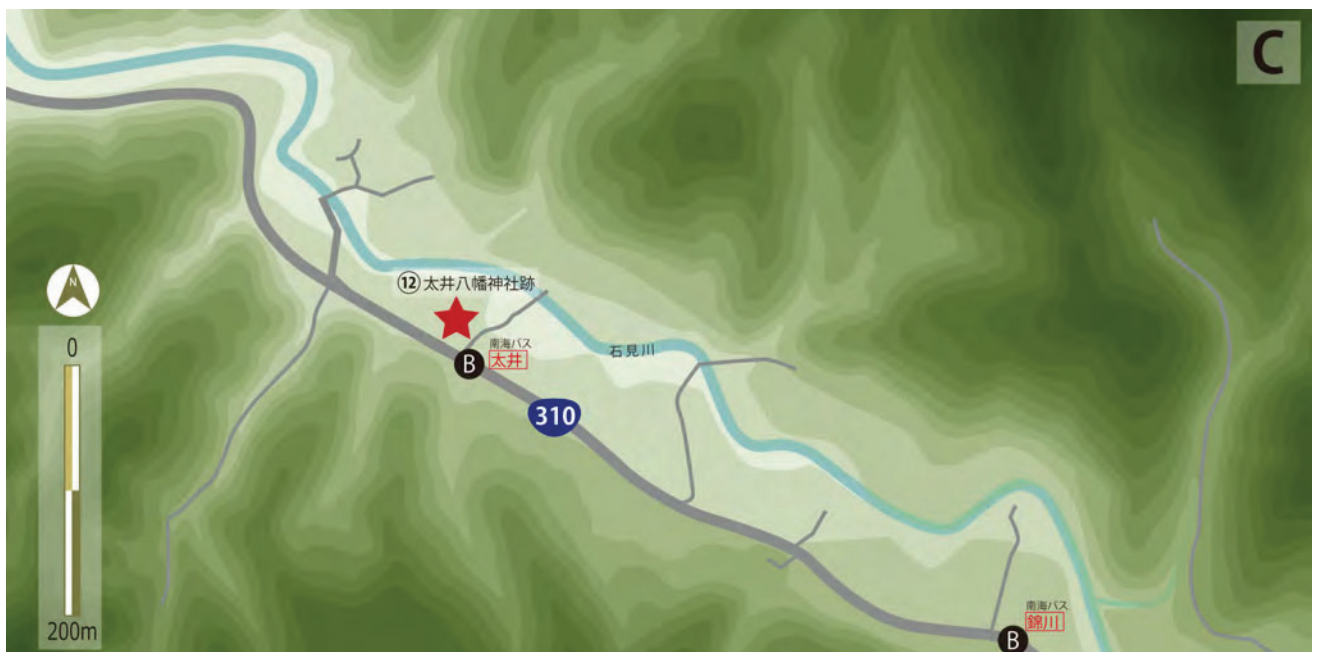
平成30年度申請タイトル
中世に出逢える里～河内長野でたどる僧と民衆が創った風景～
変更内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーについて「中世」、「観心寺、金剛寺」を対象とした点は継続し、<u>その隆盛した歴史的背景を明記し、今も文化財所有者、地域住民の堅い絆、深い郷土愛によって継承されている様々なジャンルの中世文化遺産にまちじゅうで出逢い、体感出来る稀有な地域</u>という内容に変更した。 ・構成文化財に、中世の烏帽子形城跡をはじめ高野街道沿いにある文化財を追加した。 ・地域活性化計画のうち、「地域活性の取組」では<u>30年度にアンケートを実施し、その結果からターゲット層を想定した</u>。「自立的・継続的な取組」ではガバメントクラウドファンディングの導入や商品開発など具体的な収入源を付記した。「実施体制」では<u>市民・団体の参画を得た協議会を設立したこと、日本遺産専任理事を観光部局に配置したことを記し、認定後に協議会を発展させ、部会の設置や外国人観光客の多い高野町との連携など、組織を図式化して示した</u>。

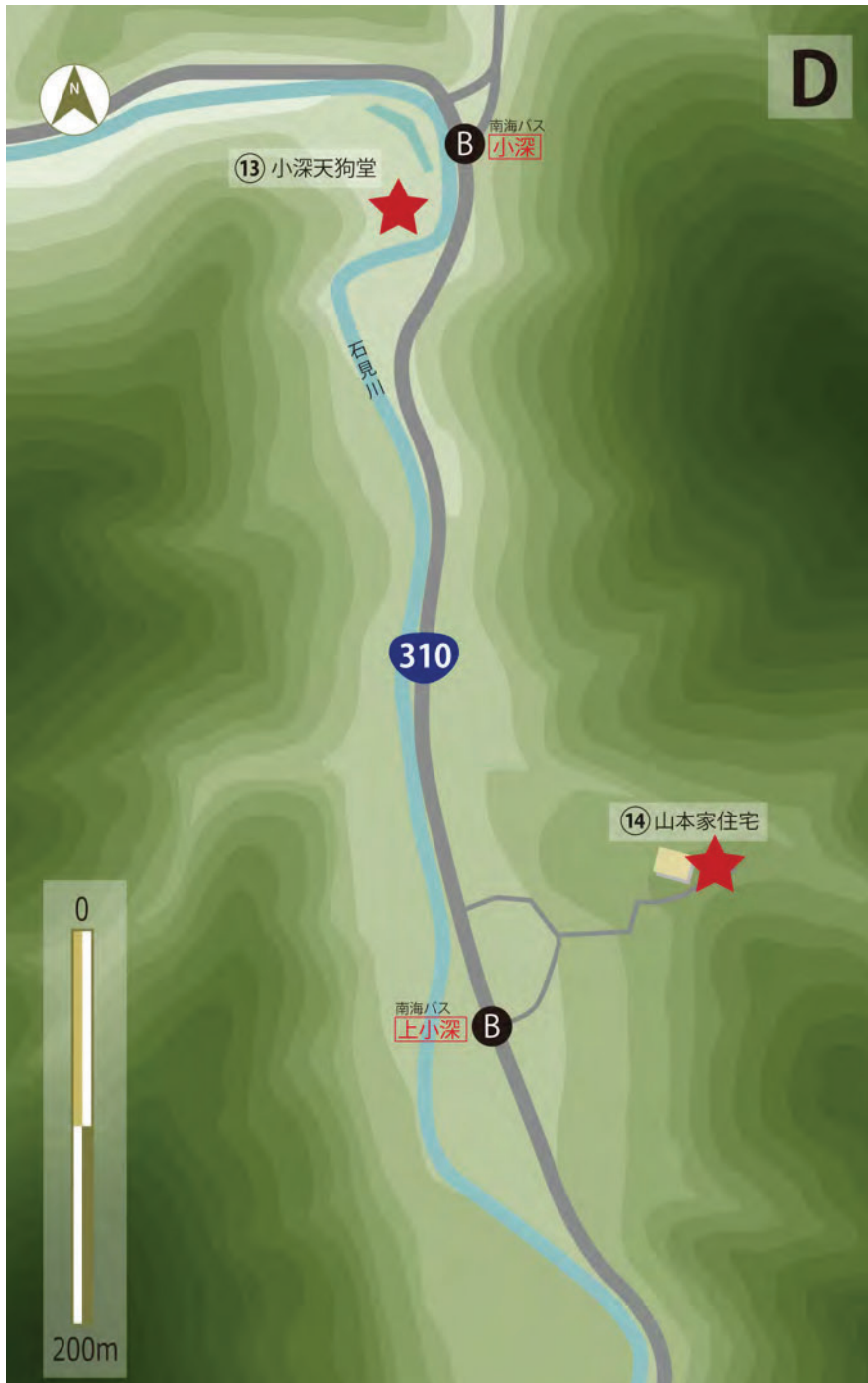
市町村の位置図 (地図等)



構成文化財の位置図 (地図等) ①

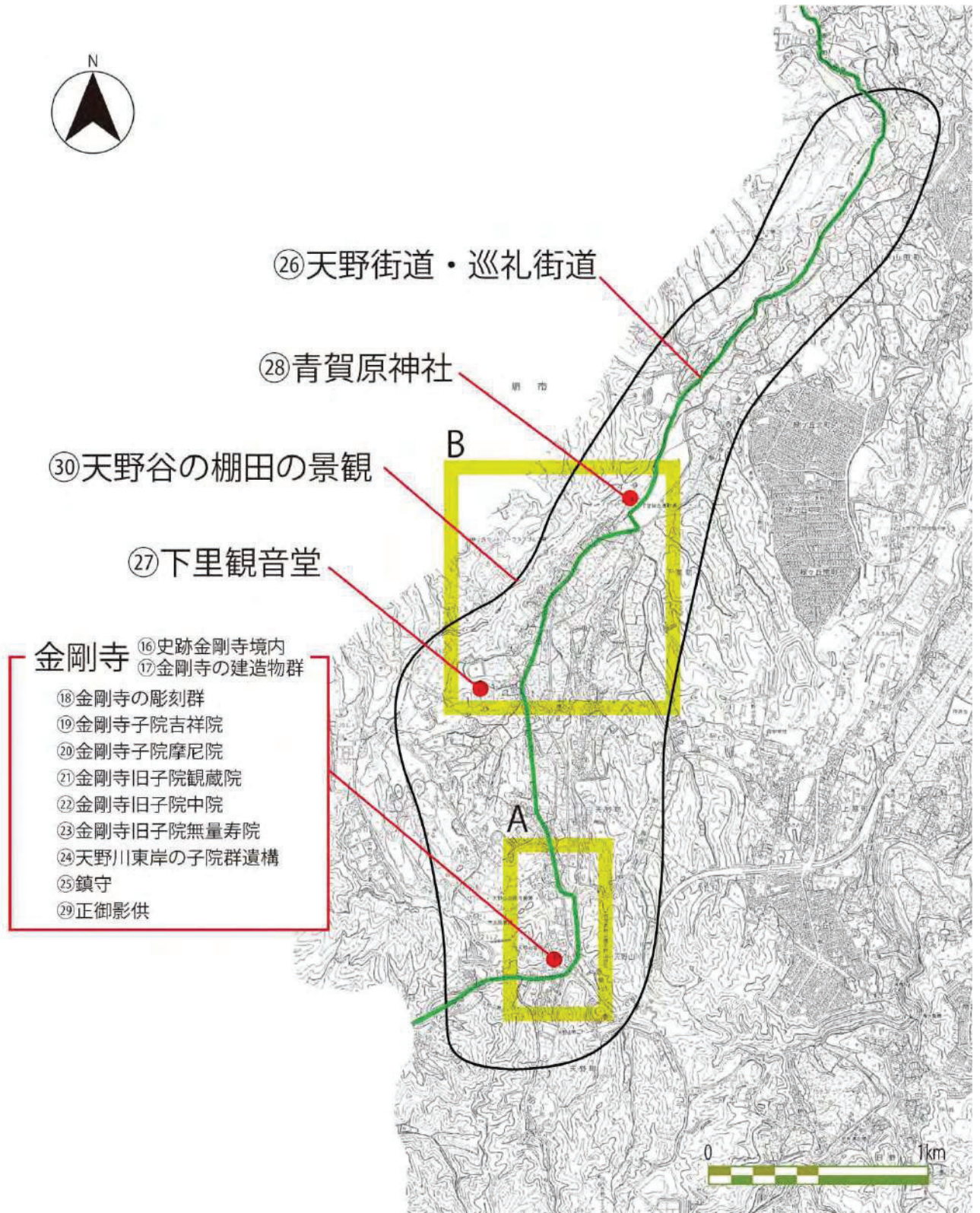






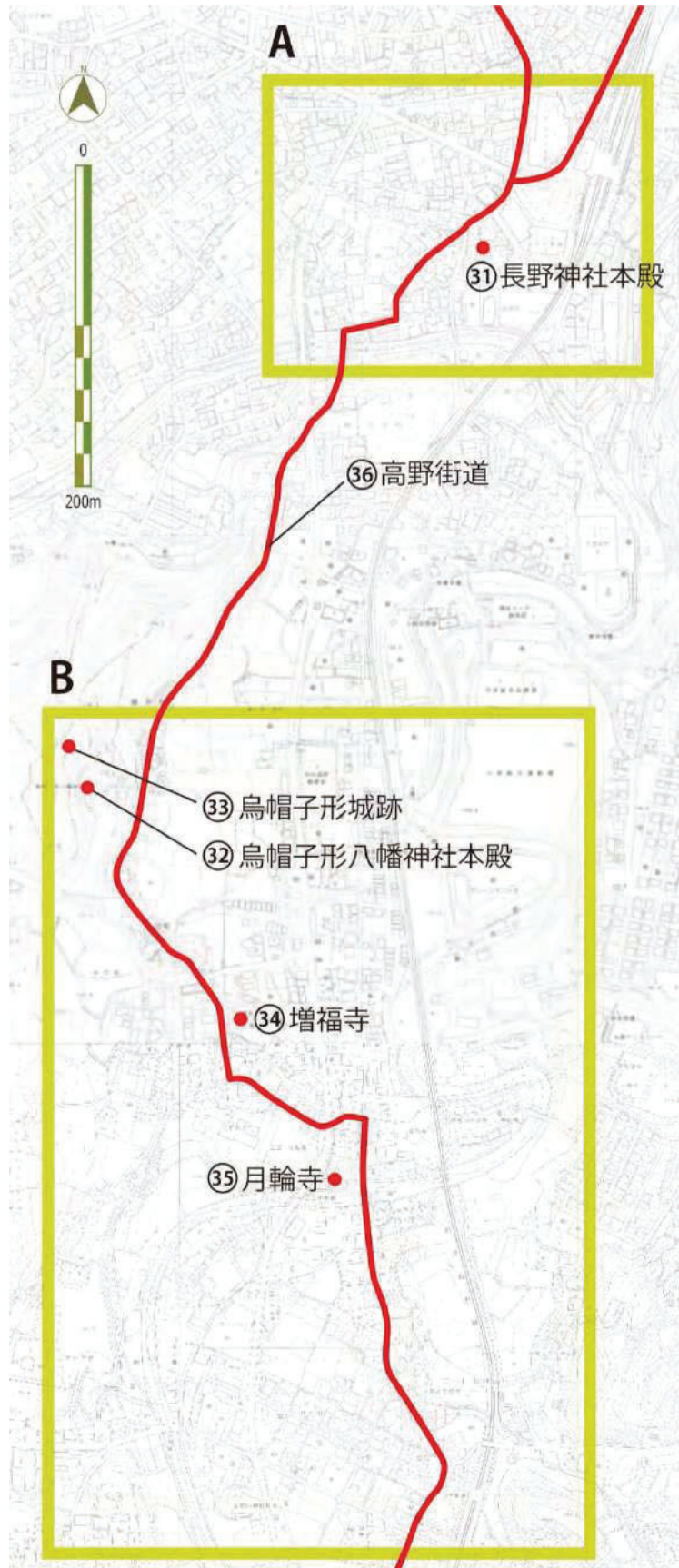


構成文化財の位置図（地図等）②





構成文化財の位置図（地図等）③





ストーリー

1. 中世に隆盛した観心寺、金剛寺

河内長野市には、中世に隆盛した観心寺、金剛寺の2大寺院があり、観心寺は高野街道から大和国に向う大沢街道沿いの、また、金剛寺は和泉国から高野街道に接する巡礼街道沿いの谷あい

に所在している。深緑の街道を歩くと、街道沿いに白壁の塀が続き、門をくぐると銀色の瓦で葺かれた屋根、朱・緑・黄色などの鮮やかな色に彩られた柱、白い土壁をもつ建物が見える。その優雅で美しい建物に入ると漆黒に塗られた、凛とした静けさに包まれた内陣があり、そこには金色に光り輝く仏像が安置されている。建物、仏像共に中世から護り継がれてきたものである。

寺院を中心としたそれぞれの谷の景観は、全体に棚田が広がり、丘陵の裾には小高い場所に建てられたお堂や社を中心に民家が一定のまとまりをもって形成されている。今もかつて寺院が治めた里山風景を留め、心が安らぐ自然景観を残している。

2. 隆盛の要因

このような景観がつくられたのは、有力農民の子弟が寺院に入るとともに農地が寄進されるなど地域とのつながりが強く、地域の中心に寺院があったことによる。観心寺の場合、高野山を開創し、東寺を真言密教の根本道場とした空海が、高野山と東寺の間にある観心寺を中宿として、真言宗発展の重要な拠点とした。このことで嵯峨天皇の勅願所にも定められ、後に朝廷の定めた官寺である定額寺に列せられ発展した。一方金剛寺の場合も、行基を開創とし空海が修行した寺院であり、一時衰退していたが、高野山を下りた1人の僧によって再興され、観心寺と同じく朝廷と強い関係を持つと共に、源頼朝など武家の庇護も受けることとなった。両寺とも朝廷との関係が強く築かれたことから隆盛し、南北朝時代においては約10年間、南朝(後村上天皇、長慶天皇)の行宮となり、政治の中心地となった。金剛寺においては塀を隔てて北朝(光厳・光明・崇光上皇)と共に一時期過ごすという歴史的な舞台にもなった。

両寺が隆盛したのは、このように朝廷との強いつながりがあったからであるが、それを更に強めた要因の一つに京と高野山を結ぶ高野街道の存在があった。この街道は平安後期頃、高野参詣の主街道となった。長承元年(1132)の鳥羽上皇の参詣以降、京からの院および貴族の参詣はことごとくこの街道を往来するこ



金剛寺境内図



金剛寺周辺の里山風景



金剛寺境内



南朝と北朝を分け隔てた塀



観心寺境内



観心寺周辺の里山風景

ととなり、途中、観心寺に参拝するなど、朝廷との関係を更に強めていくことになった。

3. 高野街道沿いの様相

この高野参詣が庶民の間に普及し始めた中世半ばには高野街道も旅人や商人で賑わい、それとともに街道沿いの長野神社、烏帽子形八幡神社の社殿も整備された。

西、東高野街道が合流する地点では、大和、和泉を結ぶ街道にも通じており、さらに当時物流を担った河川も合流することから、大勢の人々で賑わいをみせていた。中世の山城がこのように交通や流通の要衝の地に築かれることから、街道を見渡す地に烏帽子形城が築かれた。織田信長による河内平定後、河内国内の城をことごとく廃城していく中で、この城は河内国と紀伊国の国境に在ったため、紀伊国からの攻めに対する砦として残された。

4. 中世に出逢うまち

観心寺、金剛寺は共に朝廷と強い関係を築いたことから隆盛し、境内都市を形成した。この境内都市を支えたのは周囲の村々から出家して寺に入った人々であり、子院は彼らが生活を送った場所であった。そしてそこでは、僧侶たちが「衆議(しゅうぎ)」と呼ばれた話し合いによって民主的な運営がなされていた。地域に根差した僧侶と村民の絆、寺と地域のつながりは、現在も祭礼を協働して行うなど、相互の係わりを深めている。

この両寺院の隆盛は、金堂などの建物、仏像、美術工芸など多くの歴史文化遺産を今に遺し、また、高野街道沿いなどの寺院でも平安期の仏像が安置されている。更に中世に整備された長野神社、烏帽子形八幡神社の社殿と共にタイマツタテや勸請縄かけなどの神事も村々の人たちによって護り継がれている。

加えて紀州勢からの砦となった烏帽子形城跡は現在も良好な形で土塁、横堀が残り、市街地にあるため見学が容易な史跡として地元住民にも親しまれている。

大阪の都心から30分という都市近郊にありながら、市域の7割が山林という地形的な特徴から、大寺院を支えた中世の風景が破壊されることなく今に留め、また多くの寺社で中世の文化遺産が護り継がれている。河内長野市は、まさに千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫であり、訪れる人がまちじゅうで中世を体感できるまちである。



高野街道



烏帽子形八幡神社



長野神社



八幡神社(流谷)勸請縄かけ



史跡烏帽子形城跡



金剛寺の正御影供

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	史跡観心寺境内 <small>しせきかんしんじけいだい</small>	国史跡	かつて、周辺の領地を支配した中世から続く大寺院。都市的な景観をもっており、地域の政治、経済、文化の中心であった。多くの中世の文化財建造物が残る他、伽藍整備した空海の高弟実恵の墓などがある。	
②	観心寺の建造物群 <small>かんしんじ</small>	国宝（建造物） 国重文（建造物） 府有形（建造物）	観心寺の主要な景観構成要素となっている建物群である。中世から近世前半に建築されたものが多い。	
③	観心寺子院中院 <small>かんしんじしういんちゆういん</small>	国史跡	寺の運営をになった僧侶の住まいである子院の一つである。特に中院は、観心寺にのこる現役の子院である。門は、江戸時代に築造されたものである。	
④	観心寺旧子院榎本院 <small>かんしんじきゆうしういんえんほんいん</small>	国史跡 重文（建造物） 府有形（建造物）	榎本院は、観心寺の有力子院であった。本坊として使われてきたため、庫裏、書院、持仏堂、庭園が良好な状態でのこっている。	
⑤	観心寺旧子院総持院跡 <small>かんしんじきゆうしういんそうぢいん</small>	国史跡	後村上天皇の行在所となった子院である。現在、南朝を顕彰する池と碑がつくられている。	
⑥	観心寺の彫刻群 <small>かんしんじ</small>	国宝（彫刻） 重文（彫刻）	古代から中世にかけて造られたものが多く、中世に開花した文化がかつてこの地が繁栄した事を今日に伝える重要な文化財である。	
⑦	大沢街道 <small>おおさわかいどう</small>	未指定（史跡）	観心寺と寺領を繋ぎ、大和国に通じ、また高野山へ向かう高野街道へとつながる、人や物資が行きかう主要な道として利用されてきた。	
⑧	川上地区等の民家と棚田の景観 <small>かわかみちく</small>	未指定（名勝）	川上地区等の石見川・小深・太井・鳩原・下岩瀬・上岩瀬は観心寺の領地であり、観心寺七郷の村落として中世文書にも登場する。現在でもお堂や鎮	

			守を中心に古民家、棚田が残っており、かつての里山景観をみることができる	
⑨	かわかみじんじや 川上神社	未指定(建造物)	大沢街道沿いに在り、寺領の一つであった鳩原の社であったのが、現在、合祀に他の鎮守社も集まっている。	
⑩	はとのほらみろくどう 鳩原弥勒堂	未指定(建造物)	寺領の一つであった鳩原のお堂で、観心寺の奥之院であったという伝承が残る。山号は観心寺と同じ檜尾山である。	
⑪	はとのほらだいにちじ 鳩原大日寺	市有形(彫刻)	大日如来坐像などの中世の密教彫刻群がある。現在は、観心寺に寄託されている。	
⑫	おおい はちまんじんじやあと 太井八幡神社跡	未指定(史跡)	寺領の一つであった太井の鎮守社の跡である。	
⑬	こぶかてんぐどう 小深天狗堂	未指定(建造物)	寺領の一つであった小深にあるお堂である。	
⑭	やまもとけいじゅうたく 山本家住宅	国重文(建造物)	寺院の領地に在った民家の佇まいを今日に伝えている文化財である。地区内をはしり、視点場となっている国道からも、その巨大な茅葺屋根を眺望できる。	
⑮	いわせやくしじ 岩瀬薬師寺と彫刻群	市有形(彫刻)	かつては、薬師堂と呼ばれ観心寺の子院であった。真言宗で本尊とされることが多い大日如来をはじめ、釈迦如来、薬師如来等の古代から中世にかけての仏教彫刻群がある。	
⑯	しせきこんごうじけいだい 史跡金剛寺境内	国史跡	かつて周囲の領地を支配していた大寺院の一つ。築地塀に囲まれた中心伽藍は境内の心臓部であり、様々に彩られた金堂や多宝塔が存在する。	
⑰	こんごうじ 金剛寺の建造物群	国重文(建造物) 府有形(建造物)	中世から近世前半に建築されたものが多く、境内の景観の主要な構成要素となっている。実際に後村上天皇が政庁とした建物そのものが残っている点の特筆される。	

⑱	金剛寺の彫刻群	国宝（彫刻） 国重文（彫刻）	中世の密教彫刻が数多く伝わっており、中世に開花した文化とかつてこの地が繁栄した事を今日に伝える重要な文化財である。
⑲	金剛寺子院吉祥院	国史跡	金剛寺の現役の子院の一つである門と庫裏は、江戸時代中期のものである。
⑳	金剛寺子院摩尼院	国史跡 国重文（建造物）	摩尼院は、後村上天皇が行宮とした子院であり、食堂とならび、かつてこの地が天皇が住まう地であったことを伝えている。
㉑	金剛寺旧子院観蔵院	国史跡	子院観蔵院は、北朝方の上皇の行宮であり、摩尼院とは隣り合っている。塀を1つ隔て両朝の皇族がいたことを示している。現在は、内部が御所風に設えられている。
㉒	金剛寺旧子院中院	国史跡	子院跡である中院は、有力な子院であった。現在は、本坊として使われているため、書院、庫裏、持仏堂がのこっている。
㉓	金剛寺旧子院無量寿院	国史跡	無量寿院は、南北朝時代に学頭をつとめた禅恵を輩出した有力子院であった。現在、門と庫裏がのこる。
㉔	天野川東岸の子院遺構群	国史跡	天野川に沿って、かつての子院の門と土塀がのこっており、都市的な景観が広がっている。
㉕	鎮守	府指定（建造物）	金剛寺中心伽藍の東にある丘陵上に建つ鎮守社である。金剛寺の守護神を祀る神社である。
㉖	天野街道・巡礼街道	未指定（史跡）	金剛寺と外部世界を結ぶ古道である。天野街道は金剛寺と堺を結び、巡礼街道は和泉国、河内国を繋ぐ路であった。
㉗	下里観音堂	未指定（建造物）	かつて金剛寺の寺領であった下里にあるお堂である。
㉘	青賀原神社		かつて金剛寺の寺領であった下里の鎮守社である。本殿は江戸時代のものである。

②⑨	しょうみえく 正御影供	市無形民俗	天野山金剛寺の僧侶と地域住民が一体となって行っている祭礼である。地域社会と深い関係を築きながら発展した金剛寺の姿を今日にしめしている。
③⑩	あまのだに 天野谷の棚田の景観	未指定(名勝)	かつて金剛寺が支配した寺領の景観を今日に伝えている。寺院を背景に棚田が広がっている。
③⑪	ながのじんじやほんでん 長野神社本殿	国重文(建造物)	東、中、西高野街道が合流し、木屋堂の宮とも言われて、栄えていた地に在る神社。上皇の旅日記にも見える。
③⑫	えぼしがたはちまんじんじやほんでん 烏帽子形八幡神社本殿	国重文(建造物)	烏帽子形山の麓、高野街道に面して在り、氏神さまとして地域の人々に大切に護られている。
③⑬	えぼしがたじょうあと 烏帽子形城跡	国史跡	交通・流通の要衝の地で、高野街道を見渡せる、河内国と紀伊国の国境近くに築かれた城。
③⑭	ぞうふくじ 増福寺	旧法指定(彫刻)	高野街道に面して在るお寺で、堂内には平安時代の仏像が安置されている。
③⑮	がかりんじ 月輪寺	府指定(彫刻)	高野街道の三日市宿にあり、室町時代の仏像が安置されている。
③⑯	こうやかいどう 高野街道	未指定(史跡)	空海が高野山を開いて以降、多くの皇族、貴族、そして中世中期以降は庶民も高野山に参詣した道。
③⑰	やくじゆさんえんめいじ 薬樹山延命寺	国重文(絵画・彫刻) 府天然記念物 市有形(絵画)	弘仁年間、弘法大師が自ら地蔵菩薩の尊像を刻んで本草とされたのが寺の起こりとされ、今も「北向き地蔵」として親しまれている。
③⑱	はちまんじんじや 八幡神社	府有形(工芸品) 市無形	八幡神社は、高野街道沿いの河内国と紀伊国の県境に在り、宇多天皇の皇子、式部卿敦實親王がこの地を石清水八幡宮に寄進したことから、後に勧請された。

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 史跡観心寺境内



① 史跡観心寺境内



② 観心寺の建造物群



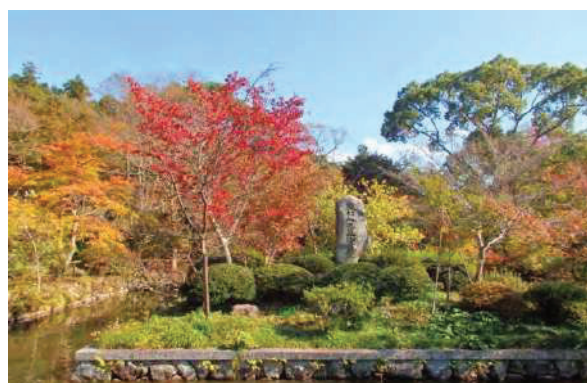
③ 観心寺子院中院



④ 観心寺旧子院楨本院



⑤ 観心寺旧子院総持院跡



⑥ 観心寺の彫刻群



⑦ 大沢街道



⑧ 川上地区等の民家と棚田の景観



⑨ 川上神社



⑩ 鳩原弥勒堂



⑪ 鳩原大日寺



⑫太井八幡神社跡



⑬小深天狗堂



⑭山本家住宅



⑮岩瀬薬師寺と彫刻群



⑯ 史跡金剛寺境内



⑰ 金剛寺の建造物群



⑱ 金剛寺の彫刻群



⑲ 金剛寺子院吉祥院



⑳ 金剛寺子院摩尼院



㉑ 金剛寺旧子院観蔵院



②② 金剛寺旧子院中院



②③ 金剛寺旧子院無量寿院



②④ 天野川東岸の子院遺構群



②⑤ 鎮守



②⑥ 天野街道・巡礼街道



②⑦ 下里観音堂



⑳青賀原神社



㉑正御影供



㉒天野谷の棚田の景観



㉓長野神社本殿



㉔烏帽子形八幡神社本殿



㉕烏帽子形城跡



③④ 増福寺



③⑤ 月輪寺



③⑥ 高野街道



③⑦ 延命寺



③⑧ 八幡神社



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
76	中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～

(1) 将来像 (ビジョン)

【中長期的 (20 年～30 年) な見地に立った地域のあるべき姿】

地域住民の多くは日本遺産やストーリーについての理解を深め、子供たちは、授業をとおして日本遺産を知ること、日本遺産があることを誇りに思っている。地域住民たちは日本遺産を語ることが出来る。また、日本遺産を大切にしたいと思えることから、文化財所有者だけでなく地域住民によって、中世の寺社仏閣、仏像や山城などが適切に保存され、地域住民は行事や祭事の継承にも積極的に関わっている。

構成文化財が適切に保存されたこの地で、来訪者は、地域住民 (ストーリーテラー) から日本遺産のストーリーを聴き、伝統的な祭りやイベントに参加することで、まちじゅうで日本遺産を体感することができる。加えて、日本遺産のテーマである中世の雰囲気や文化を肌で感じた来訪者は、日本遺産「中世に出逢えるまち」のファンとなり、クラウドファンディングやふるさと納税などで支援を行う。

民間事業者は、日本遺産のストーリーを体感できる商品や体験コンテンツの開発、ツアーの販売で地域経済が活性化するのに伴い、企業での雇用機会が増えている。河内長野市日本遺産協議会は独自で事業費の調達 (補助金等の活用を含む) 及び人員確保を行い、日本遺産の事業を推進する“稼ぐ”団体となっている。

【文化資源の保存・継承と文化資源の活用がどのように好循環を生み出しているか】

文化財保存活用地域計画に基づいた、歴史文化遺産の調査研究を行い、計画に基づいた適切な保存・整備を計画的に実行し、日本遺産の構成文化財としての価値を高めることで、地域住民や来訪者が日本遺産を体感することができる。満足度があがることで、日本遺産のファンとなり、文化財の保護及び活用や産業振興に関するふるさと納税やクラウドファンディング実施の際は、十分な支援が行われ、更なる文化資源の保存・継承につながるという好循環を生み出す。

【長期的構想 (総合計画、観光振興計画等) への日本遺産の位置づけ】

河内長野市総合計画及び河内長野市観光振興計画、文化財保存活用地域計画については、2025 年度が最終年度であり、2026 年度から新たな計画が始まる。河内長野市は歴史文化遺産が豊富にあり、日本遺産認定前から、自然・歴史・文化などの地域資源を活かしながら観光振興や交流人口の増加、既存事業者への支援や起業促進など市内経済の活性化に向けた取り組みの必要性を謳っている。新たな総合計画においてもさらに 1000 年護り継がれるまちを目指し、交流人口の増加による集客と消費を高める観光振興の推進の資源として日本遺産を活用する方針が盛り込まれる予定である。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：観光入込客数（千人）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	1,077	1,068	1,129 (推計値)	1,145	1,162	1,179
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：河内長野市への国内の観光入込客数</p> <p>設定根拠：河内長野市総合計画（平成28年度～37年度）の指標である観光入込数において、毎年度1.5%加算した伸び率を設定していることから、2024年度の観光入込客数（推計値）に毎年度1.5%加算した伸び率を設定した。</p> <p>ただし、河内長野市総合計画及び河内長野市観光振興計画については2025年度に策定、2026年施行のため、最終的な目標値等はそれに合わせて修正を行う。</p> <p>把握方法：観光関係施設への聞き取りによる</p>					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：外国人観光客数（人）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	2,205	13,201	13,450 (推計値)	13,651	13,855	14,062
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：河内長野市への外国人観光入込客数</p> <p>設定根拠：河内長野市総合計画（平成28年度～37年度）の指標である観光入込数において、毎年度1.5%加算した伸び率を設定していることから、2024年度の観光入込客数（推計値）に毎年度1.5%加算した伸び率を設定した。</p> <p>ただし、河内長野市総合計画及び河内長野市観光振興計画については2025年度に策定、2026年施行のため、最終的な目標値等はそれに合わせて修正を行う。</p>					

把握方法：観光関係施設への聞き取りによる

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合（％）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	18.2	21.3	19.3	20.8	22.3	23.8

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：市民意識調査の「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度</p> <p>設定根拠：河内長野市総合計画（平成28年度～37年度）の指標である「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度を指標として設定。総合計画の最終目標は27.6%（2025年度）であったが、コロナ禍等の影響などもあり、20%前後を推移していることから、2024年度の実績値を基準とした。伸び率は、河内長野市総合計画と同じく1.5%を設定した。</p> <p>ただし、河内長野市総合計画については2025年度に策定、2026年度施行のため、最終的な目標値等はそれに合わせて修正を行う。</p> <p>把握方法：毎年度の調査</p>
---------------------	---

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：経済効果（千円）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	67,743	85,010	102,012 (推計値)	112,213	123,434	135,777

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：道の駅奥河内くろまろの郷、河内長野市観光案内所及び木根館における年間売上額</p> <p>設定根拠：道の駅奥河内くろまろの郷、河内長野市観光案内所、木根館は、日本遺産関連の商品を取り扱う主な施設である。過去の傾向から、売上額の対前年度比10%増を目標値とした。</p> <p>把握方法：各施設からの報告</p>
---------------------	---

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－B：日本遺産関連商品の取り扱い店舗数（件）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	12	16	19	22	25	28
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：日本遺産関連商品を取り扱う店舗数</p> <p>設定根拠：当協議会での営業等を通して、日本遺産関連商品の取り扱いを希望する店舗が増えることは、商品としての魅力があると判断できることから、取り扱い店舗数を指標とした。数値は、2024年度の実績値を元に、毎年度3件増加することを目標値とした。</p> <p>把握方法：販売元からの協議会への取り扱い報告による</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること

指標④－A：日本遺産のためのふるさと納税額（千円）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	26,651	23,390	35,275 (2025.2.18 時点)	38,802	42,682	46,950
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：河内長野市のふるさと納税の寄付項目「文化財の保護及び活用」、「産業の振興」は、日本遺産を所管する部署への寄付金であることから、活用した事業への寄付金額を指標とする。</p> <p>設定根拠：日本遺産「中世に出逢えるまち」を応援する市外の住民が増えれば、ふるさと納税で応援していただけると考える。増加率は近年上下しており、正確な予測は困難であるが、過去の傾向から、平均して対前年度比10%を見込める。増を目標値とした。2025.2.18時点の金額を基準とし対前年度比10%増の伸び率で目標値を設定した。</p> <p>把握方法：実績値</p>					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること

指標⑤－A：小売店舗年間商品販売額（百万円）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	65,869	65,869	65,869	66,600	67,266	67,938
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：小売店舗年間商品販売額</p> <p>設定根拠：河内長野市総合計画（平成28年度～37年度）の指標である小売店舗年間商品販売額において、毎年度対前年度比約1%の伸び率を設定。河内長野市総合計画の最終目標値（2025年度）を66,600百万円としていることから、最終目標値に毎年度1%を加算した伸び率を設定した。</p> <p>ただし、河内長野市総合計画及び河内長野市観光振興計画については2025年度に策定、2026年施行のため、最終的な目標値等はそれに合わせて修正を行う。</p> <p>把握方法：経済センサスー活動調査の結果による（次回2026年度実施）</p>					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること

指標⑤-B：入湯税（千円）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	1,614	1,907	1,775 (推計値)	1,863	1,956	2,053
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>具体的な指標（指標名称）：河内長野市への入湯税</p> <p>設定根拠：日本遺産のコンテンツ増加に伴い宿泊者の増加につながると推定されること、入湯税が河内長野市の観光振興に係る補助金等に充当されていることから、地域への経済波及効果が測定できるとして設定した。</p> <p>伸び率は、過去3年分（2020～2023年）の平均値が5%であることから、同等の伸び率が見込めるものとし、2024年の推計値を基準として対前年度比5%増を見込んで設定した。</p> <p>把握方法：河内長野市への納入金額実績による</p>					

(3) 地域活性化のための取組の概要

【これまでの成果・課題】

これまで、認定当初に提出した「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づき、情報発信ツールの整備（パンフレット、映像等）や情報発信（ターミナルでのデジタルサイネージ等）、人材育成を行ってきた。

2021年度に、日本遺産に関する嗜好性等調査を実施し、日本遺産「中世に出逢えるまち」のターゲットイメージを設定や情報収集の方法、嗜好性を明らかにした。2022年度以降は、当該調査の結果を元に事業を進めている。

《ターゲットイメージ》

30代男性、1人旅もしくは恋人旅、自然観光や歴史文化を旅の目的とする

40代女性、親と一緒に旅もしくは友人旅、グルメや街並み散策を旅の目的とする

2022～2024年度は、嗜好性調査の結果に基づき地元企業等と協力して食や体験コンテンツといった商品開発を行うなど、調査結果を踏まえた事業を実施してきた。その結果、開発した商品について、順調に売上を伸ばすなど一定の成果を得ている。また、国内外問わず、SNS（特にInstagram）や自治体ホームページを閲覧し、情報収集していることから、2024年度には、新たに当協議会公式のInstagramとホームページを立ち上げた。

今後は、日本遺産を体験、体感できるコンテンツのさらなる磨き上げと商品化、継続的な情報発信が課題である。加えて、現状、市職員が地域の中に入って調整を行い、商品開発や販路拡大などを行っていることから、今後、自立・自走化のためにも中核を担う人材や事業を実施するプレイヤーの存在を欠かすことが出来ず、地域での人材育成が課題である。

【取組の概要】

次の3年間では、これまでの取り組みを継続・増強しながら、前述した課題を解決するための事業を実施し、6年後の法人化（NPOやDMO、一般社団法人等）を目指した素地づくりの期間とする。

①組織整備

“稼ぐ”団体となり事業の充実を図るため、中核を担う人材発掘・育成やワーキンググループ設置などを含め、組織の再整備とその手法を検討する。加えて、既に「楠公さん」・「楠公めし」をキーワードに事業を実施する団体が存在するため、ワーキンググループに昇華すべく事業のサポートを行い、その手法を用いて他の部会を立ち上げるべく組織整備を行う。3年後には、新たにワーキンググループ“中世に出逢い隊”を組織し、コンテンツ開発を行う。

②戦略立案

2021年度の嗜好性調査をもとにターゲットイメージを設定し、事業を進めてきた。その効果検証を行い、商品開発や情報戦略のための調査を実施し、新たな戦略立案を行う。加えて、構成文化財の適切な保護・修繕・活用を行うための調査や日本遺産を普及啓発するための施設の活用について検討を行う。

③人材育成

ワーキンググループの設置に向け、人材発掘・人材育成のために市内事業者や地域住民

等を対象に、大学や専門家と連携してワークショップや講座などを開催する。また、地元愛とシビックプライド醸成を行うとともに将来的な地域プレイヤーとして活躍が期待される市内の児童・生徒に対してふるさと歴史学習やワークショップを開催する。

④整備

2024年度にゲートウェイとして整備した河内長野駅を中心に、地域住民や来訪者が日本遺産を体感できる環境整備を行う。開発したコンテンツや商品を販売に力を入れたため、2025年度には観光案内所の拡充を行う。また、来訪者、地域住民が日本遺産を体感できるよう、観心寺・天野山金剛寺の二大寺院をはじめとする構成文化財の保存修理を行う。

⑤観光事業化

大阪・関西万博や日本遺産の日イベントに出展し、2022年度以降に開発した日本遺産関連商品を販売やワークショップを行う。特に「楠公めし」はアレンジレシピ開発を継続して行い、知名度アップを目指して道の駅や構成文化財の寺院で行われる特別公開などに合わせてイベントを実施する。

⑥普及啓発

市内の児童・生徒に対してふるさと歴史学習やワークショップを行う。また地域住民に対して、日本遺産に関する講座を実施する。

⑦情報編集・発信

2024年度に整備した、公式 Instagram とホームページの更新、充実を図るため、地域住民等と協力して情報発信を行う。また、協議会を法人化した際の収入源となるためには、閲覧者やファンの獲得が重要であることから、ホームページ・Instagram の拡充を図る。

(4) 実施体制

河内長野市日本遺産推進協議会

委員会

協議会としての意思決定機関。方針等を策定する。

構成団体
【委員】文化財所有者（天野山金剛寺、観心寺、延命寺）・河内長野市観光協会・かわちなかの観光ボランティア倶楽部、河内長野市商工会、河内長野市文化振興財団、河内長野市郷土研究会、河内長野市（観光商工所管部局・文化財所管部局）
【オブザーバー】南海電気鉄道株式会社、南海バス株式会社、大阪第一交通株式会社、株式会社日本旅行

事務局

日本遺産を活用した事業を企画・立案・実施する。

河内長野市（観光商工所管部局・文化財所管部局）

中世に出逢い隊の新設

日本遺産を活用した事業を実施するためのワーキンググループ

食のコンテンツ開発

日本遺産を活用した食の開発と食に係る事業の企画・立案・実施。

【想定】
主たる実施者：市内飲食店、宿泊事業者、小売店、地域住民 等

ツアー開発

日本遺産を活用した体験コンテンツの開発、ツアーの企画・立案・実施。

【想定】
主たる実施者：市内事業者、農林業者、旅行会社、地域住民、構成文化財所有者、宿泊事業者、交通事業者 等

情報発信

日本遺産を活用した情報発信を行う他、情報発信のための事業を企画・立案・実施。

【想定】
主たる実施者：地域住民、市内事業者、宿泊事業者、構成文化財所有者、交通事業者 等

連携

市・市教育委員会

- ・関係計画策定（総合計画、観光振興計画、文化財保存活用地域計画等）
- ・各種支援措置（補助金等）
- ・庁内連携
- ・人材育成
- ・ふるさと歴史学習の実施
- ・教材開発

学校

連携

大学・専門家

- ・文化財調査
- ・観光連携 等

連携

企業

- ・事業協力
- ・事業 PR 協力 等

[人材育成・確保の方針]

日本遺産に係る事業を推進し、地域活性化に繋げるためには、市民・市内企業・市職員を核とした団体が必要である。

【地域プレイヤーの育成・確保】

2023年度から継続して「楠公めし」・「楠公さん」をテーマとして市内飲食店と協力して料理教室の実施や商品開発を進めている。料理教室を通して市内飲食店に日本遺産が浸透しつつあり、今後も継続して商品開発やイベントの実施を進めたいという意向があり、日本遺産を推進する機運が生まれている。まずは、この「食」に関するチームの事業をサポ

ートしながら、地域プレイヤーとして育成を行う。このほか、体験コンテンツの開発などを起爆剤とした「ツアー開発」、SNS を活用した「情報発信」については、新たに組織する。

【将来的な地域プレイヤーの育成・確保】

市内の小中学校では、「ふるさと歴史学習」として日本遺産をはじめとする地域の歴史を学習する時間が設けられており、市職員が出前授業を行っている。ふるさと歴史学習を受講したことで文化財に興味を持ち、現在、文化財ボランティアとしても活躍する学生がいることから、将来的な地域プレイヤーとしての育成につながっていると見え、今後も継続していく。

【地域プロデューサーについて】

現状、市職員が地域の中に入って調整を行い、商品開発や販路拡大などを行っている。今後、自立・自走化のために稼ぐ団体として成長するためには、中核を担う人材の育成が必要である。地域プレイヤー育成のためのワーキンググループ「中世に出逢い隊」から中核を担う人材を育成するため、トレーナーとして大学や企業の専門家の招聘も検討する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

1. “稼ぐ” 組織体制への変革

河内長野市日本遺産推進協議会は、日本遺産の普及啓発や調査研究等を担う任意団体として活動してきた。活動内容は、これまでと変わりなく、日本遺産を核とした地域の魅力増進・地域活性化事業の推進である。当協議会が継続して事業を実施するためには、補助金や寄付だけに頼るのではなく、当協議会自体が稼ぐことのできる団体となる必要がある。そのためには、NPO 法人や DMO といった組織化を目指した組織整備を行う。

2. “稼ぐ” 手段の検討

協議会として、すぐに着手できるもの＝短期的、条件を整えながら実施するもの＝中長期的と分けて、独自の費用を確保するために下記的手段を講じる。

【短期的】

- ・ 開発した商品の販売
⇒大阪・関西万博や日本遺産関連イベント等で商品を販売する
旅行会社等への営業

【中長期的】

- ・ 新たな商品開発
⇒食や体験コンテンツの開発、それらを活かしたツアーなど
国・府などの補助金や委託金を原資として実施
- ・ SNS やホームページ等を活用した広告収入
⇒2024 年度に整備した Instagram やホームページを活用する
- ・ 事業に応じたクラウドファンディング

最終的には、独自で事業費の調達（補助金等の活用を含む）及び人員確保を行い、日本遺産の事業を推進する河内長野市日本遺産推進協議会事務局としての役割を担うことを目標とする。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

文化財保存活用地域計画に基づき、歴史文化遺産の調査研究を行い、将来にわたって保存・継承するため、日本遺産「中世に出逢えるまち」の構成文化財である二大寺院の観心寺・金剛寺の文化財を中心に、計画に基づいた適切な保存・整備を計画的に実行し、日本遺産の構成文化財としての価値を高める。

構成文化財の保存・整備のため、文化財の保護及び活用に関するふるさと納税額の増加を目指す取り組みとして、文化財に関する魅力ある返礼品の研究及び文化財所有者との協議を行っていく。

保存・整備を実施した構成文化財は、郷土歴史学習や現地学習などの教育分野や観光分野での活用により、日本遺産のまちであることによる地域住民の郷土愛やインナーブランディング及びシビックプライドの醸成並びに他地域からの来訪者の増加に繋げていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	河内長野市日本遺産推進協議再整備検討事業		
概要	“稼ぐ”団体となり事業の充実を図るため、組織の再整備とその手法を検討する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	河内長野市日本遺産推進協議再整備の検討	“稼ぐ”団体となり事業の充実を図るため、中核を担う人材発掘・育成やワーキンググループ設置などを含め、組織の再整備とその手法を検討する。加えて、既に「楠公さん」・「楠公めし」をキーワードに事業を実施する団体が存在するため、ワーキンググループに昇華すべく事業のサポートを行い、その手法を用いて他の部会を立ち上げるべく組織整備を行う。	河内長野市日本遺産推進協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	河内長野市日本遺産推進協議会会議開催回数		2回
2023			2回
2024			2回
2025	同上		3回
2026	同上		3回
2027	同上		3回
事業費	2025年度：0円	2026年度：0円	2027年度：0円
継続に向けた事業設計	本事業の趣旨と必要性を各団体及び委員に理解してもらい、協議会の事業推進のために会議に出席し議論を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	日本遺産「中世に出逢えるまち」に係る計画策定		
概要	2021 年度の嗜好性調査をもとにターゲットイメージを設定し、事業を進めてきた。その効果検証を行い、商品開発や情報戦略のための調査を実施し、新たな計画策定を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「中世に出逢えるまち」嗜好性調査	2021 年度に実施した嗜好性調査で設定したターゲットイメージ、その嗜好性に合わせて実施した事業について、検証するための調査を行う。調査の成果を踏まえて、ターゲットイメージや事業の見直しを図り、新たな事業計画を策定する。	河内長野市 日本遺産推進協議会
②	第 2 期河内長野市観光振興計画の策定	河内長野市の観光振興の指標となる計画を策定する。その計画の中で、日本遺産をどのように活用し、地域の活性化を図るか盛り込む。	河内長野市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産「中世に出逢えるまち」に係る計画策定のための会議開催回数		—
2023			—
2024			—
2025	同上		2 回
2026	同上		3 回
2027	同上		3 回
事業費	2025 年度：0 千円 2026 年度：10,000 千円 2027 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	2025 年度・2027 年度については、基本的に費用をかけずに市や事業者 に協力を依頼し調査を実施する。2026 年度については、国庫補助金等 を活用して、ビックデータ等も活用した規模の大きな調査を実施する。 調査の結果をもとに、協議会の会議で計画策定を行い、事業を実施する。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	組織再整備に向けたワークショップ		
概要	ワーキンググループの設置に向け、人材発掘・人材育成のために市内事業者や地域住民等を対象に、大学や専門家と連携してワークショップや講座などを開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ワーキンググループ設置のためのワークショップ等の実施	人材発掘・人材育成のために市内事業者や地域住民等を対象に、大学や専門家と連携してワークショップや講座などを開催する。	河内長野市 日本遺産推進協議
②	「楠公さん」・「楠公めし」をテーマとしたワークショップの実施	市内の事業者等を対象に、「楠公さん」・「楠公めし」をテーマとしたワークショップ（料理教室等を想定）を開催し、新商品の開発やイベント開催に向けた準備を行う。	河内長野市 日本遺産推進協議・市内事業者
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			—
2023	ワークショップ開催回数		1回
2024			3回
2025	同上		3回
2026	同上		5回
2027	同上		5回
事業費 継続に向けた 事業設計	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円 日本遺産に関する事業として実施するため、河内長野市からの補助金にて事業を実施する。本事業で発掘・育成した人材とともに商品開発やワークショップを行う。		

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名	日本遺産の情報発信拠点整備事業		
概要	2024年度にゲートウェイとして整備した河内長野駅を中心に、地域住民や来訪者が日本遺産を体感できる環境整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	河内長野市観光案内所整備事業	日本遺産の情報発信の場として、観光案内所内に日本遺産コーナーを整備する。加えて、開発したコンテンツや商品を販売の強化を図るため、2025年度に観光案内所の移転整備を行う。	河内長野市・河内長野市日本遺産推進協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光案内所入込客数		4,355人
2023			4,503人
2024			5,569人(推計値)
2025	同上		8,000人
2026	同上		12,000人
2027	同上		18,000人
事業費	2025年度：30,091千円 2026年度：12,788千円 2027年度：12,788千円		
継続に向けた事業設計	河内長野市観光案内所は、河内長野市が管理・運営する施設のため、河内長野市の負担で整備を行う。日本遺産関連商品については、国・府・市の補助金等の活用やクラウドファンディングにより資金調達を行い、市内事業者等の理解を得ながら共に商品開発を行い、充実を図る。加えて、日本遺産関連商品を開発し、河内長野市のふるさと納税の返礼品として出品することで、協議会への補助金		
(事業番号4-B)			
事業名	文化財保存活用地域計画に基づく構成文化財整備事業		

概要		来訪者、地域住民が日本遺産を体感できるよう、観心寺・天野山金剛寺の二大寺院をはじめとする構成文化財の保存修理を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存活用地域計画に基づく歴史文化遺産の保存・整備・継承支援、活用	文化財保存活用地域計画に基づき、歴史文化遺産の調査研究を行い、将来にわたって保存・継承するため、日本遺産「中世に出逢えるまち」の構成文化財である二大寺院の観心寺・金剛寺の文化財を中心に、教育分野や観光分野での活用（建造物の公開、史跡を会場とした現地学習など）に資するよう、計画に基づいた適切な保存・整備を計画的に実行していく。	河内長野市教育委員会・河内長野市・文化財所有者など
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	文化財整備件数		1件
2023			1件
2024			1件
2025	同上		3件
2026	同上		3件
2027	同上		2件
事業費	2025年度：101,338千円 2026年度：70,718千円 2027年度：122,000千円		
継続に向けた事業設計	国宝・重要文化財としての価値だけでなく、日本遺産の構成文化財としても重要であることから、構成文化財の所有者だけでなく、国・府・市からの補助金を活用して事業を実施する。また、所有者の負担分については、クラウドファンディングなども活用することを検討する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	商品開発と商品の販売強化事業		
概要	大阪・関西万博や日本遺産の日イベントに出展し、2022年度以降に開発した日本遺産関連商品の販売やワークショップを行う。特に「楠公めし」はアレンジレシピ開発を継続して行い、知名度アップを目指して道の駅や構成文化財の寺院で行われる特別公開などに合わせてイベントを実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連商品の開発・販売	日本遺産関連商品の開発（磨き上げ含む）を行い、大阪・関西万博や日本遺産の日イベントに出展し、2022年度以降に開発した日本遺産関連商品の販売を行う。加えて、日本遺産関連商品である、段ボール甲冑～楠木正成モデル～を活用し、子供向けのワークショップ（有料）を開催する。	河内長野市 日本遺産推進協議会・市内事業者
②	日本遺産及び日本遺産関連商品の販路拡大	日本遺産及び日本遺産関連商品の販路拡大とツアー一造成を目指して、旅行会社等との商談会や旅行会社への営業等にて、商談を行う。	河内長野市 日本遺産推進協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			①2回 ②1回
2023	①イベント出展回数 ②商談会等出席回数		①4回 ②2回
2024			①4回 ②1回
2025	同上		① 3回 ② 1回
2026	同上		① 4回 ② 2回
2027	同上		① 3回 ② 3回
事業費	2025年度：0千円 2026年度：60,000千円		2027年度：60,000千円

<p>継続に向けた 事業設計</p>	<p>自治体向けの商談会で紹介できる商品（土産品・体験コンテンツ等）や日本遺産の魅力を当協議会から提供し、河内長野市とともに商談を行う。イベントには、市内事業者へ出展の魅力を説明し、協議会とともに出展してもらう。イベント出展料については、短期的には市補助金を活用し、中長期的には商品の売上や市内事業者からの委託金で支払う。</p>
------------------------	---

<p>(7) - 6 普及啓発</p>			
<p>(事業番号6-A)</p>			
<p>事業名 概要</p>	<p>日本遺産「中世に出逢えるまち」普及啓発事業 日本遺産「中世に出逢えるまち」の認知度や関心を高め、インナーブランディング及びシビックプライドの醸成を促進していくため、歴史文化遺産を活用した普及啓発事業を行う。</p>		
	<p>取組名</p>	<p>取組内容</p>	<p>実施主体</p>
<p>①</p>	<p>日本遺産を活用した郷土歴史学習事業</p>	<p>河内長野市内の各小中学校において、日本遺産を構成する歴史文化遺産に関する授業を実施する。 授業内容は、河内長野の日本遺産に関してや、檜尾山観心寺や天野山金剛寺、高野街道など各校区の地域に密接な関係がある歴史遺産について、季節の行事（無形文化財）などである。 また、川上小は観心寺及び延命寺、天野小は金剛寺での子ども文化財解説を実施し、美加の台小は高野街道、三日市小は史跡烏帽子形城跡での現地体験学習を合わせて実施する。</p>	<p>河内長野市教育委員会</p>
<p>②</p>	<p>日本遺産に関する講演会事業</p>	<p>日本遺産「中世に出逢えるまち」を構成する歴史文化遺産である、史跡烏帽子形城跡や観心寺及び金剛寺などをテーマとした講演会を実施することで、市内外への情報発信と普及啓発を図る。</p>	<p>河内長野市日本遺産推進協議会</p>
<p>③</p>	<p>歴史文化遺産の広報拠点としての「ふるさと歴史学習館」活性化推進事業</p>	<p>「ふるさと歴史学習館」は、郷土の歴史、民俗等に関する資料の収集、保存、調査及び研究を行い、またこれらの資料を展示して広く一般に公開し、市民の学習活動の支援及び文化遺産の保護に資するための施設である。 その「ふるさと歴史学習館」において、日本遺産「中世に出逢えるまち」の構成文化財である史跡烏帽子形城跡・金剛寺・観心寺のジオラマの展示など、日本遺産を活用したコンテンツを</p>	<p>河内長野市教育委員会・河内長野市日本遺産推進協議会</p>

		充実することで、日本遺産のまちであることや、河内長野市の歴史文化遺産の魅力を広く伝え、館の活性化を行い、来訪者の増加促進に繋げる。	
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			1,762人
2023	日本遺産に関する授業を受けた生徒・児童数		1,296人
2024			1,453人
2025	日本遺産に関する授業を受けた生徒・児童数		1,465人
2026	日本遺産に関する授業を受けた生徒・児童数		1,475人
2027	日本遺産に関する授業を受けた生徒・児童数		1,470人
事業費	2025年度：職員人件費 2026年度：職員人件費 2027年度：職員人件費		
継続に向けた事業設計	<p>河内長野市では、過去から小学生・中学1年生を対象に年間約60回程度郷土歴史学習を実施しており、2024年度の対象児童・生徒数約4,500人の内、1,453人に日本遺産「中世に出逢えるまち」に関する郷土歴史学習を実施した。</p> <p>今後、少子化による児童・生徒数の減少が見込まれるが、そのような状況でも、学校教育所管課や学校現場との連携を強化し、日本遺産に関する郷土歴史学習の内容充実や回数増加などにより、日本遺産のまちであることによる郷土愛やインナーブランディング及びシビックプライドの醸成を促進していく。</p>		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名		公式ホームページ・Instagram・PR 動画等による継続的な情報発信及び情報発信事業	
概要		2024 年度に整備した、公式 Instagram とホームページの更新、充実を図るため、地域住民等と協力して情報発信を行う。また、協議会を法人化した際の収入源となるためには、閲覧者やファンの獲得が重要であることから、ホームページ・Instagram の拡充を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	公式ホームページでの情報発信	日本遺産に関するイベントや日本遺産のストーリーを深化させる記事を掲載し、旅マエ情報として来訪者の興味関心を惹く、旅アトは日本遺産を振り返ることができる記事作成を目指す。そのためにも日本遺産のストーリーや構成文化財の調査研究を進める。	河内長野市 日本遺産推進協議会・河内長野市
②	公式 Instagram での情報発信	公式 Instagram を効果的に運用するため、協議会だけで情報発信を行うのではなく、アンバサダーなどを定めるなど、継続的に新鮮な情報発信を行えるよう制度を整備する。 また、地域住民等が積極的に投稿できるよう、写真の撮り方や投稿内容の選定方法等についての講座を実施し、最終的にはワーキンググループ“中世に出逢い隊”の結成につなげる。 構成文化財の所有者が運営する Instagram は、すでにその場所のファンが多いことから、記事をシェアしてもらうことで多くの目に触れることから、密接な情報共有を行う。 2024 年度に整備した河内長野駅周辺の歩道蹴上部分は、大きな一枚の絵に見えることから Instagram での映えスポットの候補であり、	河内長野市 日本遺産推進協議会・構成文化財所有者
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	河内長野市日本遺産推進協議会公式ホームページ		—
2023	及び Instagram		—

2024	①ホームページ掲載記事数（イベント・お知らせ） ②Instagram 投稿数	①1 件（2024 年 1 月～） ②37 回（2024 年 12 月～）
2025	同上	①24 件 ②130 回
2026	同上	①24 件 ②150 回
2027	同上	①24 件 ②170 回
事業費	2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円 2027 年度：300 千円	
継続に向けた 事業設計	短期的には、河内長野市の補助金を活用し、情報発信のための人材育成やアンバサダー制度など地域住民とともに協議会が中心となって情報発信を行う。長期的には、地域住民等によるワーキンググループ“中世に出逢い隊”の情報発信部門を設立し、情報発信を担う。また、ホームページバナーや Instagram での PR を有償で請負い、ホームページや Instagram の運用等にかかる資金とする。	